

特集

中部支部研究集会ワークショップ報告 ～企画B：星景写真をより一歩進めてみる～

武井咲予（星空公団）

1. はじめに

本集会が開催された長野県飯田市のハイランドしらびそは「天文の聖地」と呼ばれ、星空の美しい場所です。ワークショップ企画Bは「星景写真をより一歩進めてみる」。大西浩次さんを講師に、実習形式で行われました。

2. 自分の撮影セットを持参し参加

星空写真に必要なカメラや三脚などは自身の機材を使用、撮影と操作ができることが参加の前提となります。21時、30名近くの参加者が玄関前に集合しスタートです。

2.1 作者の心象を写し出す「星景写真」

星景写真は、カメラの設定さえ知れば誰でも撮れることから人気があります。

ワークショップでは、星と景色を同時に収めながら作者の強い気持ちによって撮影される「星景写真」を意識し、大西さんと幾つかのポイントを徒歩でめぐり、思い思いに夜空と景色を切り取ります。



図1 参加者の撮影風景[1]

2.2 撮影した写真を見ながら反省会

実習後の反省会は、参加者全員の講評を予定していましたが、実習時間が予想以上に長

引いたため、希望者優先でスクリーンに映し講評をいただきました。撮影者がどのような視点で空と向き合ったのか、個性あふれる作品と大西さんのあたたかいアドバイスがとても参考になり、励みになりました。



図2 星景写真作例[2][3]

3. おわりに

研究集会は初参加でしたが、暖かい歓迎と満天の星に恵まれ充実のプログラムとなりました。ワークショップで得たことを、今後の星景写真撮影に活かしていきたいと思います。

撮影データ

[1] 24mm f3.5 ISO3200 20秒

[2] 24mm f3.5 ISO3200 30秒

[3] 28mm f3.5 ISO3200 30秒

いずれも筆者撮影 カメラ Nikon D600